



## 平成25年度東北大学サイバーサイエンスセンター顕彰について

雑誌名	SENAC : 東北大学大型計算機センター広報
巻	47
号	2
ページ	78-78
発行年	2014-04
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00124820">http://hdl.handle.net/10097/00124820</a>

## [報 告]

## 平成 25 年度東北大学サイバーサイエンスセンター顕彰について

東北大学サイバーサイエンスセンターでは、本センターを利用し顕著な貢献があった方や、長年にわたり本センターの運営に貢献した方などに対する顕彰制度を設けており、平成 25 年度は、本学の澤谷邦男名誉教授に功績賞を授与いたしました。

澤谷名誉教授は、平成 16 年度から継続的に本センターと共同研究を実施するなど、シミュレーション技術の高度化に取り組まれており、高度利用技術に関する研究開発において多くの成果を生み出されました。そこで得られた知見は、本センターの大規模科学計算システムの設計に生かされ、同システムの高度化に多大な貢献をされております。また、本センターの各種委員としてもセンター運営に多大な貢献をされてきました。

全国共同利用・共同研究拠点である本センターにとって、大規模科学計算システムの潜在能力を最大限に引き出すための高度利用技術に関する研究開発、利用環境の整備、さらにそこから得られた知見を基に次期システムの設計を行うことは極めて重要であり、これらを円滑に推進するためには、大規模科学計算システムを先端科学分野の研究に実際に活用している研究者とシステム設計者であるサイバーサイエンスセンター研究者との協同が必要不可欠です。

表彰式は、平成 26 年 2 月 24 日（月）本センターで行われた第 12 回情報シナジー研究会冒頭で行われ、小林広明センター長から澤谷名誉教授へ表彰状と副賞が手渡されました。



## 『受賞者のコメント』

東北大学名誉教授     澤谷   邦男

サイバーサイエンスセンター功績賞の授与、誠にありがとうございました。私が東北大学大型計算機センター（当時）を初めて利用したのは、1970 年に学部 4 年生になって研究室に配属され、卒業研究でプラズマ中のアンテナから放射される電子プラズマ波に関する研究を行った時です。それ以来、退職するまでの 44 年間、ユーザとして大型計算機のお世話になってきました。当初は余り複雑な問題を扱うことができませんでしたが、計算機の進歩に伴ってより複雑な問題にも挑戦することができ、いつも大型計算機の性能をフルに使わせてもらったと思います。海外のアンテナ・電磁界の研究者に比べると我が国の大学の研究者はいつも最新の計算機を使える環境にあり、計算の内容もかなり高度であります。ユーザはこの優位性を認識し、東北大学の大規模科学計算システムを大いに活用して優れた研究成果をあげて下さる様に願っております。